

## 第21回 千葉県食育推進県民協議会 会議要旨

- 1 日 時 令和3年11月25日（木） 午前10時～12時
- 2 場 所 Zoom 会議 （本庁舎2階 千葉県県民活動情報オフィス）
- 3 出席者 構成員14名

### 4 結果概要

#### (1) 開会

#### (2) あいさつ

川島農林水産部次長

#### (3) 議題

##### ①第4次千葉県食育推進計画策定スケジュールについて

資料1により農林水産部安全農業推進課から説明

##### ②第4次千葉県食育推進計画案について

資料2、3により農林水産部安全農業推進課から説明

##### ③第4次千葉県食育推進計画における指標及び目標値（案）について

資料4により農林水産部安全農業推進課から説明

#### (明石座長)

以上、議題について各々説明があった。

各構成員からの御質問、御意見をいただき、議論を深めたい。

小学校長会の宮内先生、学校給食における食品ロスは、ここ5年、10年でどのような傾向があるか。コロナ禍の影響も踏まえて御意見をいただきたい。

(県小学校長会 宮内氏)

本校で見ている限りでは、栄養教諭がメニューを工夫する等により、食べ残しは減少していると感じている。また、特にコロナ禍の影響で食品ロスが増えているという状況はない。

本日は、東総（銚子市・旭市・匝瑳市）の満喫給食の日であり、児童生徒からメニューを募集し、その工夫をこらしたメニューを提供する。具体的には、本市の生徒が副菜部門で大賞をとったレシピ「秋野菜のベーコンきんぴら」というメニュー等を提供する予定である。具体的な数字は持っていないが、このように食への関心が高まる中で、食品ロスは改善傾向にあると感じている。

(明石座長)

県学校栄養士会の小林会長、千葉県レベルで食品ロスの統計はとっているか。

また、例えば学校体育の研究指定校は、子供の活動量が多いから給食の食べ残しが少ないなど、学校の特徴と食品ロス量の関連はあるか、お伺いしたい。

(県学校栄養士会 小林氏)

県レベルで食品ロス量の統計はないが、多くの市町村では把握していると思う。

私の勤めている我孫子市では、どの料理も5%以下の残菜率になるように取り組んでいる。

また、学校行事や活動量と、残菜量の関連について、私の経験では、学校全体の活動というよりも、給食時間の取組を全教員で同じ視点に立って取り組んでいるかということころで大きな差が出ていると思う。

さらに、コロナ禍でおかわりが自由にできなくなり、担任が配り残しを子どもたちに配ることで、残菜が減る、という傾向を感じている。

コロナ禍より前はおかわりを自由にできたため、おかわりに行く子が限られ、時間がなくなって結局残してしまう、というような状況もあった。

担任の負担は増えたが、担任が子ども達の様子を見て、この子はもうちょっと食べられるだろう、と担任が子ども達に目を配って声をかけていくことで、自由におかわりをする時よりも残菜量が減っているように感じる。

また、体育の指定校など、体育関係の活動が活発な学校の生徒は、よく食べると思う。これは、活動量が多いことも関係していると思うが、体を動かすために栄養をしっかりと摂る必要性等、食事や健康に関する指導を行っている学校が多いためだと思う。

(明石座長)

千葉自然学校の小松事務局長、自然体験活動をすると食品ロスは減るのか。

(千葉自然学校 小松氏)

食品ロスというキーワードで、先週、イオンワンパーセントクラブが実施する中学生の作文コンクールがあった。5年目になるが、全国から7,500以上の作文が集まった。

その中で、自分は学校給食を食べることがすごく遅く、最後まで全部食べたい気持ちはあるが、昼休みに友達と遊びたいため、残してしまう、という子がいた。

また、食べ残しをなくすことを先生がクラスの目標にしており、食べたくないけど、よそわれてしまっただけで食べるという子もいて、おいしく食べるのと、いやいや食べるのは、子供の視点から見ると違うのでは、という感想が書かれていた。

給食は本当においしいのかおいしくないのか、好き嫌いではなく、味が本当にいいのか悪いのか、学校によっても違いがあると思う。いやいや食べるのとおいしく食べるのは違う。

我々はキャンプの中で、火をおこし、野菜を切り、食事を作ると、そこに違う旨味が出てくる。みんなで協力して作ったから食べるんだ、という子ども達の意欲もでてくるが、まずいものはまずい。だからこそみんなでおいしく作ろうという目標をもって行っているため、子ども達は自分達で作った料理はしっかりと食べる子が多い。

食べず嫌いの子もいるが、その子たちには一口でも食べてみて、おいしければおかわりをしよう、という話をしている。そうすると、最初は嫌いだったが、自然の中で食べるとおいしい、と言ってくれる子もいる。一手間加えることによって、おいしく感じられることもあると思う。

企業は食品ロスについて積極的に取り組んでいる。我々はハウス食品と「食と農と環境の体験教室」というのを10年程実施している。今年は、コロナ禍で実際に田んぼに

来てもらうことが難しかったため、各家庭にバケツ稲を送り、現地と家庭をオンラインでつなぎ、実際に田植え、稲刈りをして、獲れたお米と冷蔵庫の中にあるものを使ってカレーを作る、ということをやらせていただいた。

(明石座長)

イオンの鈴木部長、イオンや流通全体の中で実施している食品ロスに関する取組について伺いたい。

(イオン株式会社 鈴木氏)

企業としては、経営的な面からみても食品ロスの削減は重要であり、以前から取り組んでいるところである。そのため売れ残りという部分では、かなり減っている。

一方、店頭等においても、様々な媒体やスタジオ等を使用し、啓発、情報発信を行っている。

家庭からのロス、生産者から流通に入ってくるまでのロス等についても非常に大きな割合を占めているため、それらについてサプライチェーン全体でどう削減していくかも非常に重要なことと思っている。

例えば、規格外の野菜の販売や、家庭に対して保存方法の周知、レシピの配布をする等、積極的に行っている。一方的な発信は比較的簡単にできるが、実際どのような効果があったか等、リアルタイムの反応をしっかりウォッチし、双方向のやりとりをしていかなないとなかなか難しいと考えている。

(明石座長)

P T A連絡協議会の佐藤さん、もしデータがあれば、一緒に食事を作る家庭がどのくらいあるか、夕食時間は十分家庭でとられているか、そのようなことに関して、もしデータや御意見があればお願いしたい。

(県P T A連絡協議会 佐藤氏)

数字は今手元にないが、コロナ禍の影響もあり、家庭で夕食を一緒に作ることは大分増えていると聞いている。

また、給食の時間が限られていることにより、低学年になればなるほど遊ぶほうに意識がいつてしまい、食べ残しが多いと聞いている。

(明石座長)

食は、日常と非日常があると思うが、次は視点を変え、少し非日常を考えたい。千葉県の食文化は衰退していると感じている。郷土料理の継承についてお伺いしたい。キッコーマンの眞鍋さん、千葉県の郷土料理で、推進してほしい料理があるか。

(キッコーマン 眞鍋氏)

和食は基本的に郷土料理が根底にあると思う。食育を伝える機会を増やすこと、また販促の支援等も必要であるが、地元の素材を使用したメニューの提案なども今後継続的に行っていかなければならないと考えている。キッコーマンとしてもお力になれることがあれば、一生懸命取り組んでまいりたい。

(明石座長)

県食生活改善協議会の高橋会長、食改は千葉県の郷土料理に関心を持っていると思うが、今後さらに力を注いでほしい郷土料理があればお伺いしたい。

(県食生活改善推進協議会 高橋氏)

千葉県には多くの郷土料理があるが、太巻き寿しの啓発が多い傾向にあった。それは、できあがりの美しさ、子どもから大人まで対応できる等の理由もあると思われるが、一方で、太巻き寿し作りは準備が非常に大変である。

今後は太巻き寿し一つに限定せず、地域活動や学校の授業での限られた時間、短い時間で作ることができ、簡単であり、食材が手に入りやすい、というようなことを踏まえ、啓発をしていく必要がある。そこで、千葉県が生産量1位である落花生とお米の文化を併せて、時間内で落花生おこわを作る方法を考えた。

しかしながら、食生活改善推進員が力をいれていても、地域や学校等から食育活動をしてほしいというような依頼がないと、勝手には踏み込んでいけないため、食生活改善推進員の活用を是非お考えいただきたい。

(明石座長)

県漁業協同組合連合会の鶴岡部長、千葉は魚の県であるが、漁連として、魚を中心に日本や世界に打って出る計画はあるか。

(県漁業協同組合連合会 鶴岡氏)

千葉の魚をまずは県内に広めていく、次にそれを全国に広めていく、それにあわせて輸出も検討に入っているが、世界に、というところまではまだ一部の取組になっている。

まずは千葉の魚を広めていく取組ということで、千葉でどのような魚や貝が獲れているのか、というような千葉の独自性を広くPRしたい。

例えば、銚子は10年連続で水揚げ日本一ということですから、県内でも驚かれることがある。

業界で一体となり、行政にも協力していただき、千葉県は水産県であることや千葉県で獲れる魚等、具体的なPRの方法を今後検討し、広く進めてまいりたい。

(明石座長)

コロナ禍で、一人で食事をする方、一人食が大学生も含めて若い人に増えている。小学生くらいの子どものも、お父さんやお母さんが仕事で遅いときは一人で夕食を食べるなど、一人ぼっち食が増えているし、高齢者も例えば75歳以上の方は一人食が増えているように感じている。

これからの食生活において、一人食に対するサポートをどうしたらいいかというのが大きな課題であると思う。東京栄養食糧専門学校の渡邊先生は食の御専門であるが、一人食に対するサポートはどのようなことが考えられるか御意見があったらお願いしたい。

(東京栄養食糧専門学校 渡邊先生)

本来はもちろん、食べることは楽しいと感じながら、みんなで食べたほうがいいが、一人で食べなければならないときもある。その時のために、食べることの意味や食べ方を小さいときからしっかり教えていくというのが非常に大事である。また、それぞれのライフステージに応じて、なぜ一人で食べる場合でもしっかり食べてもらいたいのか、

というのを伝える必要があると思う。

千葉は食材がとてもいい。先ほど学校給食の味付けについてのお話があったが、当然、千葉の学校給食は、千葉の子どもに美味しい味付けにしている。

食文化があるため、「おいしい」というのは地域によって違ってくる。味噌やしょうゆも違いがある。千葉県で作る給食は千葉の子どもにとっておいしい給食になっているため、御両親が九州や四国だと、味が合わない人もでてくる。

様々な食文化があるけど、学校給食はこういう風に作ってるよ、と伝える必要がある。

また、例えば、鹿児島の子がいたら、鹿児島の味付けの給食をだす機会があれば、お互い学びあうことができる。

栄養的なことも背景にはあるが、結局は食べる楽しさや食文化を伝えたほうが、孤食は少し防げると感じている。

また、給食時間は、5分でも延ばしてもらいたいと思う。学校給食の場合、配るのと片付けで、給食時間の前後の時間がどうしてもとられてしまう。5分でもいいので増やしてもらえると、ゆっくり噛んで、味わって、食材がなにか観察して、というような栄養教諭や担任がする指導が活きてくる。そのような習慣が身につくことで、孤食のときも対応できるようになるのではないかと考えている。

(明石座長)

高齢者、最近のヤングケアラーという方で、お父さんお母さんの世話をしながら、結果として一人で食べないといけない方、大学生も一人食が増えているが、ちば食育ボランティアの今井さん、ちば食育ボランティアとして、一人食に対してどういうサポートを考えているかお伺いしたい。

(ちば食育ボランティア 今井氏)

確かに一人食は多いが、難しい質問である。サポートというわけではないが、一人食は、どうしても簡単なおにぎりやラーメンのような一品料理ですましてしまうという傾向がみられると思う。できるだけお皿の数を増やす、気分的にランチョンマットをひいて楽しい雰囲気食べる、というような工夫によって、孤食でも気分的に楽しい雰囲気にすることから始めていけたらと思う。

(明石座長)

仮にカップラーメンを食べたとき、もう一品食べたほうがいいものは何かあるか。

(ちば食育ボランティア 今井氏)

私の仲間で、神奈川で食育活動をしている人がいるが、学校と連携して、「たすベジ」という取組をしている。プラス野菜という意味で、合言葉で、プラス一皿野菜をとろう、という感じで、たすベジキャンペーンのようにして普及しており、浸透はしてきているようである。

(明石座長)

それは面白い取組である。

東京栄養食糧専門学校の渡邊先生、専門家からみて、カップラーメンに加えたらいいい食品はあるか。

(東京栄養食糧専門学校 渡邊氏)

今の時期で考えると、みかんを1個足すだけで随分違う。

みかんも1個ずつ売ってもらえれば、本当に学生さんも助かると思う。また、その場で、薄皮も食べると食物繊維やカルシウムが摂れるよ、というようなお得な情報も得られるようにしていただいて、学食等にみかんを1個、置いていただけるとうれしい。

(明石座長)

キッコーマンの眞鍋さん、キッコーマンとして、もう一品加えたほうがいい食品など何かあるか。

(キッコーマン 眞鍋氏)

難しい質問である。

私共は、肉・野菜・魚などをバランス良く摂っていただくことを基本的には考えている。



(明石座長)

県歯科医師会の高野理事に御意見を伺いたい。

13番の指標として、「ゆっくりよく噛んで食べる県民の割合」の現状値があるが、この数値を高くするには、どのような方策が考えられるか、専門的な立場からアドバイスをお願いしたい。

(県歯科医師会 高野氏)

ゆっくりよく噛んで食べるようにするための方法については様々な方法があるが、一つの方法としては、硬い食材、なるべく歯ごたえのあるものを食べていただきたい。夕食時だけであっても差し支えないし、また、学校給食の中にも歯ごたえのある食材をいれていただくとよろしいかと思う。

硬いものを噛み砕くことは時間がかかるため、ゆっくりそれを噛み砕いていただくことによって、子どもにとっては、あごの発育等にも非常にいい影響がある。大人では、噛むことの刺激が、非常にいい脳の刺激となる。

一人食についてのお話があったが、少しずつ改善し、家族などと一緒にお話をしながらお食事をしていただくということが、ゆっくり良く噛んで食べるということにもつながっていくと思う。

(明石座長)

以前、幼稚園・保育園でブドウを与えるときはのどにつまる可能性があるので注意してほしいという話があったが、最近ではミニトマトの苗を幼稚園で配ろうとしたときに、ミニトマトはのどにつまるからダメだと言われた事例があったと聞いている。

ブドウ、ミニトマト等の食べ方、噛み方は何歳頃から教育したらいいのか、お伺いしたい。

(県歯科医師会 高野氏)

ブドウやミニトマトなどに関しては、3歳、4歳頃から食べていただいてよろしいかと思う。しかしながら、幼稚園等で提供する場合は、食べてる最中にのどにつまらせてしまった場合等の対応ができるよう、保育士の先生に園児の変化を注意深くみていただ

きたい。

(明石座長)

県食品衛生協会の山田専務理事にお伺いしたい。

指標の22番に「外食や食品を購入する時に栄養成分表示を参考にする県民の割合」、とあるが、専門家から見て、どのようにすれば数値をあげることができるかお伺いしたい。

(県食品衛生協会 山田氏)

県食品衛生協会は栄養成分表示の直接の専門ではないが、食品の表示ということに関して、表示を義務づけられた際、業者さんから多くの質問をいただいた。

特に、表示の内容をわかりやすくすることについて苦勞されていた。それは根底には、消費者の方に見ていただきたいということがあると思う。企業としては一生懸命取り組んでいるところも多くある。

それがどこまで消費者の側に行くかは難しいところだが、継続していくことが大事だと考えている。

(明石座長)

今回初めて、ちば食育ボランティアの年間活動件数を増やすという指標が14番に入ったが、ちば食育ボランティアの今井さん、いかがお考えか。

(ちば食育ボランティア 今井氏)

先ほど食生活改善協議会の高橋会長さんからお話があったように、ちば食育ボランティアも市町村等からの依頼がないと活動できない方が多い。自主的に活動されてる方はほとんどいないと思うので、是非、学校や子供サークルなど地域の活動をされている方から、こういうことがやりたい、と依頼をいただけると活動回数も増えてくると思う。

(明石座長)

他に各構成員の方々の、この数値目標に関心がある等の御意見があればお願いしたい。

(千葉自然学校 小松氏)

「農林漁業体験に参加したことがある県民の割合」という15番の指標について、国は65.7%が現状値となっている。

千葉県は三方を海に囲まれており、自然も豊かで、農業、漁業も盛んであるため、この数値をもっとあげることができないものかと考えている。

個人的には青少年教育施設も管理しているが、その子どもたちの宿泊体験等が、今は1泊2日がスタンダードになっており、県内を移動するだけで時間をとられてしまっている。農林漁業体験をする時間がなかなかとれないというのが、学校側の意見であると思うが、宿泊体験を2泊3泊としていただければ、現地で農林漁業体験ができるのではないかと思う。是非、ここの数値、目標値もあげていただきたい。

(明石座長)

コロナ禍で大変だとは思いますが、コロナ禍ではないときでも、小・中学校の自然宿泊体験は、1泊2日が5割を超えている。かつては2泊3日が多かった。

1泊2日で、バスを使った場合、ほぼ移動だけで活動が終わってしまう傾向が見られる。

例えば兵庫県は、昭和60年から、小学校5年生で5泊6日の自然教室を実施している。中学生は職場体験で、トライやるウィークという、1週間の職場体験を行っている。

千葉県ももう少し視点を変えて、体験活動を増やすことによって、結果として千葉県の目標としている、農林漁業体験に参加したことがある県民の割合を増やしていく、それがひいては健康につながり、バランスのとれた食生活につながる、としていきたい。

県小学校長会の宮内先生、学校現場では、1泊2日を2泊3日にするのは相当抵抗があるか。

(県小学校長会 宮内氏)

小学校では1泊2日が今までの慣例であるため、2泊3日にする場合には、各家庭のご協力が必要となる。遠隔地の場合、体調を崩したときの心配等もあり、子どもも保護者も、保護者のもとを離れるということを初めて経験するなかで、いきなり2泊とするのは検討が必要であるが、2泊にすることによって得られる経験もあると思う。

(明石座長)

指標の10番、11番、12番の、1日当たりの食塩、野菜、果物の摂取量に関して、私たち素人はあまり意識していないが、専門家以外の方は、どのように1日当たりの摂取量を理解したらいいか、お伺いしたい。

(東京栄養食糧専門学校 渡邊氏)

野菜はグー・パー食生活の「パー」で3回食べれば達成できるので、野菜についてはグー・パーの「パー」を目指してね、と伝えればよい。

果物については、みかん1個、りんごはこのくらい、バナナはこれくらい、とイラスト等で具体的に示すことで理解できる。グー・パー食生活の1日分のイラストの中にも示されているので、それも活用できる。

難しいのは、目に見えない食塩である。家庭料理や惣菜は、皆さんが気がついていないかもしれないが、食塩量は随分減ってきている。新しい成分表が去年の暮れに示されたが、惣菜の食塩量が非常に減っていて驚いた。

しかしながら、例えばラーメンのスープは2.3%食塩量などが定番であり、そのおいしさを味わうために召しあがっているのも、それはそれでいいと思う。ただ、これは美味しいがしょっぱいスープであるということも、伝えていく必要がある。

目標の数値だけを見るとあまり理解ができないので、スーパーのチラシやポスターでこの食品にはこれだけ食塩が入っていますよ、などの情報を伝えてほしい。

食塩摂取量に気をつけると高血圧が防げるよね、というように、お得感とともに優しい言葉で伝えることで、やってみようかなという気持ちになるようにしていただきたい。

(明石座長)

野菜はパー、果物は具体的に伝える。食塩は少し難しいが、工夫をして伝えていく。やはりグー・パーの千葉県を、前面に出していただきたい。

(明石座長)

千葉県は農業漁業、学校給食、栄養についてもプランは非常にいいと思うが、少しPR、プロモーションが弱いかなと感じている。デジタル化の中で、これから食育をど

のように県民に発信すれば県民に御理解いただけるか、について御意見をいただきたい。

キッコーマンの眞鍋さん、千葉県のプロモーションをどのようにしたらいいか、御意見をお願いします。

(キッコーマン 眞鍋氏)

全般的に、どの世代、どこを対象に食育を伝えるかという部分で多少違ってくると思う。

私共は、特に小学生の方々に対して、工場見学に来ていただいたり、小学校の授業にお邪魔して食育まで含めた授業をさせていただいたりしていた。

現在、日々様々な状況が改善されてきているが、まだ直接的にお伺いできる状態ではないため、工場見学や授業をオンラインで実施している。このことについて、まず学校に対して広めていきたい。

特に千葉県は、工場があるが故に、元々工場見学にはよくお越しいただいているが、授業は東京都等に比べると少ないため、今後も積極的にオンラインでの接点の機会を増やしてまいりたい。

(明石座長)

お父さんお母さん、子どもに対して、どのようなプロモーションを行えば食育を理解してもらえるかについて、いい案がありましたらお願いしたい。

(県PTA連絡協議会 佐藤氏)

小・中学生は携帯を持っており、キャラクターに興味がある子も多いため、チーバくんやご当地キャラを活用し、YouTube等でCMみたいなものを配信してPRすると子どもが見るのではないかと思う。

(明石座長)

千葉自然学校の小松事務局長、どのような形でプロモーションをすれば子どもに伝わるか。

(千葉自然学校 小松氏)

昨日熊谷知事が、Twitter で縄文時代の千葉県の形を画像でアップしていた。今よりも千葉県はスリムで、それがだんだんと今のチーバくんの形になっていき、おもしろいなど感じた。熊谷知事は清潔感があり信頼度も高く、発信力もあるので、もっと熊谷知事に前にでてもらい、食育のアピールをしていただければいいと思う。

(明石座長)

私も個人的には縄文時代の食生活を見直したらいいと思っている。千葉市の加曽利貝塚、船橋や市原の貝塚、チバニアンも含めて、弥生時代以降も大事であるが、縄文時代、古墳時代も含めて食生活を見直し、バランスのとれた栄養について、チーバくんや熊谷知事、様々な人の支援をいただきながら取り組んでいきたい。

県食生活改善協議会の高橋会長、ちば食育ボランティアの今井さん、ボランティアをやりたくてもなかなか依頼がないという現状があるが、どのようにしたら依頼がくるようになるか、何か要望があればお伺いしたい。

(県食生活改善協議会 高橋氏)

私達もただ待っているだけではなく、学校や幼稚園にお伺いして、自分達の活動内容を紹介したいが、いつ、どのような方のところに訪問をしていいのかわからず、依頼があるのを待つという状況になっている。

いつ、どのような時に活動内容を紹介し、お願いをしたらよろしいか御教示いただきたい。

(明石座長)

県小学校長会の宮内先生、なにかヒントがあればお願いしたい。

(小学校長会 宮内氏)

御協力について、ありがたく感じている。

学校の教育課程は、前年の2月～3月頃に、翌年度にどのような活動を組み入れるか

を検討する。コロナや特別な条件もあり、年度途中であると調整が難しいため、2月～3月頃の時期に御相談いただきたい。

非常に食育の良い取組で、やってみたい学校も多いと思うので、学校サイドからすると、ここに連絡をすれば御紹介していただけるということ、わかりやすい形で御周知いただければと思う。

(ちば食育ボランティア 今井氏)

どこに御連絡すればいいか。どこにアピールしたらいいのかをお伺いしたい。

(県小学校長会 宮内氏)

もちろん学校に直接連絡いただいても差し支えない。

学校サイドからすると、県の食育を推進している部署のホームページを見たときに、どのような活動をしている団体があって、どこに御連絡すればいいかを、よりわかりやすい形にさせていただくと、活動に取り組みやすいと感じている。

(明石座長)

小学校、中学校の校長会で、例えば1分間だけいただいて、ちば食育ボランティアや食生活改善協議会のPRもお願いできればと思うがいかがか。

(県小学校長会 宮内氏)

県の小学校長会、中学校長会という組織があるので、御連絡をいただいて、御紹介に来ていただくと、より関心が高まると思う。

私も、小学校長会で御紹介いただいた組織の中で、今年度はチーバくんダンスの関係をお願いしたが、とても子ども達に好評であった。その場で御案内いただくのも、非常に価値があると思う。

(明石座長)

県歯科医師会の高野理事、食育のプロモーションをどのようにしたらいいかについて、御意見があればお願いしたい。

(県歯科医師会 高野氏)

プロモーションについては、熊谷知事に前面にでていただくことが、千葉県としては一番いいと思っている。

また、千葉県独自のキャラクターであるチーバくんの活用や、ゲー・パー食生活の体操などもいいのではと感じた。

熊谷知事に前面にでていただくのは一番効果があると個人的に思っているところである。

(明石座長)

県漁業協同組合連合会の鶴岡部長、魚を含めたプロモーションについて、漁連ではどう考えているか。

(県漁業協同組合連合会 鶴岡氏)

今はコロナで制限があるが、通常であれば様々なイベント等の中で、広めていく活動をしている。

この業界では、さかなくんが子ども達に非常に評判がいい。さかなくんにお魚のアピールとお魚料理について話してもらい、関心を持っていただく、というようなイベントが非常に人気があった。

(明石座長)

さかなくんはフェイスブックをやっているが、人気がある。

ツイッター、Facebook等のメディア媒体、それから活字媒体、様々なツールを使用してプロモーションをしないと難しい。

県食品衛生協会の山田専務理事、なにかプロモーションに関して御意見があればお願いしたい。

(県食品衛生協会 山田氏)

県食品衛生協会ではなく日本食品衛生協会の事例だが、食中毒について子どもたちにどのように伝えたらいいかを検討し、アニメーションや壁紙に塗り絵をするシステムの



作成、また、一部ビデオの貸出しもしていた。

それは食中毒に限定されたものであったが、そのような方法でプロモーションをするのもいいのではないか。

(明石座長)

幼児や小学校低学年は、塗り絵も効果的である。

次に、県衛生研究所の佐藤技監、お願いしたい。

(県衛生研究所 佐藤技監)

PRについては、各所からウェブ上にも多くの情報を出している。

一方で、情報を取りに行く側からは、うまくアクセスができないということが現状で、そこに齟齬がある。

県としてどこまでできるかについて検討はしているが、やはり公的にできる部分は限りがあ、り、うまくプラットフォームを作り切れないということが、私共、歯がゆく思っている部分である。

国はそのためのプラットフォームを4次計画の中で作ろうとしているため、その中で千葉県も一定の役割を果たしていければと思う。

民間レベルでのプラットフォームでないと、うまく自由な情報交換ができないため、国は外出しでプラットフォームを作ろうとしている。県レベルでは出しにくい部分も含めて、情報のやりとりができるような向きで国も動いるため、それに県としても協力しながら、という部分が出てくる。

これまで御意見があったうちのいくつかは、実は県としても取り組んでいるが、上手く届かない。届かない理由は、ユーザーフレンドリーではないからであり、ユーザーフレンドリーな開発をスピーディーにしていくためには、民間でないと難しい部分がある。

その部分は手伝っていただきながら、という形になっていくと思うので、是非4次計画の動きについては皆さん御注目いただいて、御意見いただければ、私共も努力するのでよろしくお願いしたい。

(明石座長)

そのようなプラットフォームを作っていただくと、意見が言いやすい。

食育は多くのセクションが参加しており、県でも一番多くの部局が参加しているため、それを一つのテーマにしぼる、一元化する努力をお願いしたい。

御意見はつきないと思うが、以上で議事を終了する。関係部局におかれては、各構成員の皆様の意見を踏まえ、千葉県の食育施策の推進に一層努めていただきたい。